



2026.2.20
第189号

変わるもの変わらないもの



会津教育事務所域内三支会連絡会
会長 明田 圭右
(明田商事株式会社代表取締役)

私の子どもの時から今までに、情報機器や情報化社会はどんどん進化をしています。私の仕事は農業に関わる仕事です。現在では、トラクターや田植え機などにGPSが使われ、真つすぐ田を耕したり、正確に田植えをしたりすることもできます。さらに、前年度のデータをもとに肥料などを調整して散布するなど、より良い米作りのためにデータが活用されています。また、学校の授業ではタブレットを使って授業を行ったり、電子黒板でタブレットの情報を共有したりするなど、現在の子どもたちは早くから多くの情報機

器に触れる環境の中で育っていると感じます。便利なものを使うことで、簡単に答えを見つけることができますが、その答えは様々です。情報があふれるこの社会では、必要以上の情報に振り回されないように取捨選択することが大切だと感じています。その判断をするための能力を身に付けていくには、小学校や中学校時代の学習や経験が大切なことだと考えます。私たちが小学生の頃は、ある程度の無茶をしたものです。小さな川をジャンプして飛び越えてみたり、自転車で遠くに行ってみたりなど、

その体験は自分の中で「これ以上やったら無理だな」「ここまではできる」という現在の判断の一つの基準になっています。小学校、中学校時代の多くの経験や体験が、今の自分にとっても大切なことだったと感じています。そして、大人になるにつれて、この体験や経験は人との関わりから得るものが多いと実感しています。私は教育委員として一年ほど教育に携わる中で、多くの人と関わり新たな経験を得てきたことを実感しています。情報化社会がこれからも進化、変化する中でも、いつもその先には人がいます。人は人との関わりは、どんなにAIなどが進化しても変わらないものと考えています。これからの子どもたちは、小学校、中学校で人と関わる体験、経験をとおして変化に対応できる人に成長してもらえればと思います。

発行

福島県市町村教育委員会
連絡協議会
北会津支部
西会津支部

編集

福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力

小・中学校長会

令和7年度 各種受賞紹介 (敬称略)

- 文部科学大臣表彰
 - 地方教育行政功労者 (前)金山町教育委員会
- 教育者表彰
 - 会津若松市立鶴城小学校 校長 鈴木 正和
 - 社会教育功労者表彰 湯川村社会教育委員 委員長 菊地 正孝
 - 学校給食功労者(学校給食関係者) 喜多方市立山都小学校 栄養教諭 渡部由布香
 - 優秀教職員 西会津町立西会津中学校 栄養教諭 山口 郁恵
- 県教育委員会表彰
 - 地方教育行政功労者 (前)三島町教育委員会 委員 阿部 和彦
 - 学校教育功労者
 - 会津若松市立鶴城小学校 校長 鈴木 正和
 - 会津若松市立第二中学校 校長 渡部 朋史
 - 喜多方市立第一小学校 校長 五十嵐博也
 - へき地教育功績顕著な団体 三島町立三島中学校
 - 特別功績者「児童生徒(団体)の部」 柳津町立西山小学校 緑の少年団
 - 社会教育功労者 喜多方市社会教育委員の会議 議長 伊藤 善仁
 - 文化財保護功労者 (元)湯川村文化財保護審議委員会 委員長 鈴木 國雄
 - 学校保健功労者 福島県立猪苗代支援学校 学校医 星野 修三
 - 優秀教職員
 - 会津若松市立鶴城小学校 教諭 沼木 智美
 - 会津若松市立第一中学校 教諭 栗原 康
 - 福島県教職員研究論文
 - 特選 福島県立猪苗代支援学校 教諭 本間 久登
 - 入選 福島県立蕨高等学校 教諭 村松 ぞすえ
 - 入選 福島県立猪苗代支援学校 教諭 佐藤 修一
 - 奨励賞 猪苗代町立猪苗代第二小学校 教諭 町野 藍

- 県学校関係緑化コンクール 《学校林等活動の部》
 - 福島県知事賞、福島民報社社長賞 会津若松市立川南小学校
 - 関東森林管理局長賞 会津若松市立湊学園 《学校環境緑化の部》
 - 福島県知事賞、福島民友新聞社社長賞 会津若松市立川南小学校
 - 福島県教育委員会教育長賞 会津若松市立大戸小学校
 - 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会会長賞 喜多方市立第一小学校
- 県学校歯科保健優良校表彰
 - 特別表彰 喜多方市立第一小学校
 - 最優秀賞 会津若松市立河東学園(前期課程)
 - 優秀賞
 - 磐梯町立磐梯第二小学校
 - 喜多方市立上三宮小学校
 - 喜多方市立駒形小学校
 - 湯川村立勝南小学校
 - 努力賞
 - 喜多方市立山都小学校
 - 湯川村立坂川小学校
 - 三島町立三島小学校
 - 磐梯町立磐梯小学校
 - 奨励賞
 - 磐梯町立磐梯第一小学校
 - 会津美里町立新鶴小学校
 - 喜多方市立高郷中学校
 - 福島県立会津西陵高等学校
 - 優秀活動奨励賞 会津若松市立大戸小学校

- 活動奨励賞 会津若松市立小金井小学校
- 学校保健表彰
 - 学校保健功労者
 - 福島県立川口高等学校 学校医 押部 信之亮
 - 会津若松市立第五中学校 学校歯科医 菊地 秀和
 - 喜多方市立会津北中学校他1校 学校薬剤師 高橋
 - 学校給食優良団体・功績者表彰
 - 学校給食優良団体 会津若松市立松長小学校
 - ふくしまっ子ごはんコンテスト(学校賞)
 - 学校賞
 - 会津若松市立一箕小学校
 - 喜多方市立山都小学校
 - 柳津町立西山小学校
 - 会津若松市立第三中学校
 - 三島町立三島中学校
 - 昭和村立昭和中学校
 - ふくしまっ子体力・健康優秀校
 - ふくしまっ子元気大賞 三島町立三島小学校
 - ふくしまっ子体力向上優秀校 優秀賞 会津若松市立城南小学校
 - 喜多方市立熊倉小学校
 - 食育推進優秀校表彰
 - 優秀賞
 - 喜多方市立熱塩加納小学校
 - 喜多方市立山都小学校
 - 優良賞 西会津町立西会津中学校

(令和8年1月30日現在)

自分に合った学びの環境を選ぶということは



磐梯町教育委員会教育長

中川 綾

磐梯町教育委員会は、0歳から15歳の学びの環境をどのようにつくっていくのかを昨年度新たにまとめ、「磐梯の教育0-15教育基本構想」を策定した。「多様性と包摂性があたりまえにある世界を子どもと大人でつくる」ことを理念に掲げ、いくつかの政策を進めていく予定である。令和7年度には、各小中学校の特色ある学校づくりの実現に向けて「教育プロジェクトマネージャー」を配置し、令和8年度からは「学校選択制」を導入する。学校選択ができると言っても、磐梯町は小学校2校、中学校1校となっており、選択できるのは「磐梯第一小学校」か「磐梯第二小学校」である。「なんだ2校からしか選べないのか」とか、「2校しかないのに選択制にする必要があるのか？」などという声も聞こえてこないわけではないが、「子どもが学ぶ環境を選択できる」とい

うことは、大変価値のあることだと考える。なぜなら私たちには、学ぶ権利があるのと同じように、学び方や学ぶ環境を選択する権利もあるからである。選択肢があり「選ぶことができる」環境は、私たちの権利が保障されていることにもつながる。

同時に「どちらか片一方の学校に児童が偏ったらどうするのか」という声も聞こえてくる。(令和8年度の導入時にはそんなことは起きない予定ではあるが) これも考え方を考えてみてほしい。もし、万が一、どちらか片一方に児童が偏り、学校が統合するようなことが起きたとしたら…? それは、児童や保護者である当事者がそれぞれを「決めた」ということになるのではないだろうか。行政主導で統合を進めていくのではなく、町民が主体となって決めていくことにつながると言えるのではないだろうか。つまり、それだけ私たちがもつ「じぶんで決めていく権利」には学びの環境をつくることのできる力があるのだ。それをこれからの教育政策で感じてもらえたら嬉しい。



我がまちからの情報発信

会津若松市教育委員会

「地域」と共に部活動を支える

会津若松市は、令和元年度から持続可能な部活動運営を目指し、休日の部活動の地域移行を推進しています。この取組は、「地域総ぐるみで育てる教育」の一環であり、生徒の多様な学びや成長を支えるとともに、地域社会との連携を深めることを目的としています。

部活動は学校教育で重要な役割を果たしてきましたが、少子化や教員の負担増などの課題に対応するため、新たな運営モデルが求められています。本市では、地域の教育力を活用した持続可能な部活動運営の実現を目指し、「あいづっこスポーツ・文化教室」の名称で、運動部では14種目、文化部では合唱、吹奏楽において地域移行を進めています。地域のスポーツ協会や文化団体等と連携し、専門的な指導を提供する体制を整備し、現在約290名の指導者が登録されています。なお、すべての生徒が参加できるよう、指導者への謝金は公費で賄っています。

令和8年度からは、休日の部活動を完全に地域に移行する計画を進めています。生徒は「あいづっこスポーツ・文化教室」での活動により、多様な経験を積むことができ、教員の休日勤務が軽減され、働き方改革にも寄与します。また、保護者や教員向けにリーフレットを作

成し、今以上に理解と協力を得られるよう周知を図っています。

また、この取組は県外からも注目を集めており、他の自治体が視察に訪れるなど、全国的な関心を呼んでいます。視察に訪れた関係者からは、地域と学校が一体となった運営モデルに共感をいただき、自地域での実践に向けた参考にさせていただいております。

これらのプロセスを通じて、地域のニーズに合った柔軟な運営が可能となり、持続可能な部活動の基盤が築かれています。20~30年後の社会を担う子どもたちを心豊かでたくましい人材として育てるために、より良い運営体制の構築を推進してまいります。



あいづっこ合唱教室 全会津合唱祭の様子

「家庭教育の推進に向けて」

福島県教育委員会では、第7次福島県総合教育計画における、家庭教育支援の中で「地域でつながる家庭教育応援事業」に取り組んでいます。その中で、会津教育事務所における2つの取組を紹介します。

1 地域家庭教育推進会津地区ブロック会議

家庭教育の推進や地域の教育力の向上に向け、関係団体や関係者による協議を通して、課題解決に向けた実践活動を目的として、年2回会議を行っています。各地区PTA連合会会長、学校関係者、教育委員会・行政関係者、家庭教育支援チーム、家庭教育応援企業等から24名の方に参加していただいています。

令和6・7年度には、協議の中で、親子のコミュニケーションの希薄さが課題であるとの認識から、「親子のHAPPYコミュニケーション」という広報物を作成し、会津域内の全小・中・義務教育学校、高等学校、幼稚園等に送付しました。広報物を親子で読み、話し合う中で、「わが家のルール」を作ることができます。そして、付属のQRコードから、ルールを登録することができます。

皆様の学校や学級でも、授業参観や懇



広報物「親子のHAPPYコミュニケーション」

談等の機会にご活用いただけたら幸いです。会津教育事務所のHPからダウンロードすることができます。

2 家庭教育支援者地区別研修

7月30日（水）に会津若松市北会津公民館において、40名の方に参加いただき研修会を開催しました。

会津地区で活躍されている、「家庭教育支援チーム」の皆様が、どのような活動を行っているかについて発表をしていただきました。それぞれの支援チームの活動の様子を聞き、他の支援チームとの連携の方法について考えたり、支援が必要な家庭へつなぐ方法を考えたりする貴重な機会となりました。

続いて、会津大学文化研究センター小川千里上級准教授による、「ペアレント・トレーニングを知って、子どものほめ方を身に付けよう」の講義・演習を行いました。

ロールプレイを通して、子どもをほめる際のポイントや、子どもにほめられている実感をもたせる声掛け等について学ぶことができました。特に、「ほめるハードルを下げる」(25%ルール)点について、参加者から感銘の声が上がっていました。



小川先生の講義・演習の様子

ステップアップ「Aizu」とイノベ「授業づくりセミナー」

～先生方のニーズに応え、悩みに寄り添う、先生方のための学びの場～

先生方は日々の教育活動の中で、「授業がなかなか思うように進まない」「子どもたちの実態にどう向き合えばいいのか」などの悩みを感じてはいませんか？

会津教育事務所では、そんな先生方の思いに寄り添い、具体的な解決のヒントを見つけるための場を設けています。

1. ステップアップ「Aizu」とは？

会津教育事務所独自の事業である本セミナーは、指導主事が講師となり、具体的・実践的な指導法を共に学ぶ演習型の研修です。

- ・ **特徴** 徴：先生方の多様な「ニーズ」や「困り感」に直結する講座を開設しています。
※令和7年度は15講座を開設
- ・ **魅力** 力：先生方ができるだけ参加しやすい時間帯に設定し、セミナーの内容に応じ、合同庁舎以外に、県立博物館や協力校等でも実施しています。
- ・ **参加者の声**：「明日からの授業にすぐ生かせる」「課題解決の糸口が見つかった」と好評です。

2. イノベ「授業づくりセミナー」とは？

正式名称は「イノベーション人材育成推進教員と学ぶ『授業づくりセミナー』」です。算数・数学・理科の指導力向上に特化した、専門性の高い学びの場です。

- ・ **特徴** 徴：域内のイノベーション人材育成推進教員と指導主事がタッグを組み、教材研究や授業展開を深堀りします。
※令和7年度は7講座を開設
- ・ **魅力** 力：日々の授業のブラッシュアップや研究授業に向けた指導案検討など、より実践的なサポートが受けられます。
- ・ **参加者の声**：「授業づくりが楽しみのようになった」「指導の見通しをもつことができた」との声をいただいています。

指導主事は、先生方の「パートナー」です！

これら2つのセミナーに共通しているのは、「対話」と「伴走」です。一方的な講義ではなく、指導主事が先生方の良きパートナーとして思いに寄り添い、研修後も継続して支援を続けていきます。学校という枠を少し飛び出し、新しい視点や仲間に出会ってみませんか？

ご参加を心よりお待ちしております。



各学校の特色ある取組紹介

地域とともに、はっけよい!

会津若松市立荒館小学校

子どもたちの真剣な眼差しと、一生懸命な取組に保護者からも「がんばれー!」と大きな声援が上がりました。令和7年11月11日、実に6年ぶりとなる校内相撲大会が、爽やかな秋晴れのもと開催されました。

本校では、特色ある教育活動のひとつとして校内相撲大会を例年開催してきましたが、ここ数年はコロナ禍の影響を受け休止となっていました。本年度の再開を目指し、春には、地域にお住まいの相撲関係者のご指導のもと、相撲部に所属する児童やその保護者、さらには卒業生も参加し、旧校舎敷地内にあった土俵を校庭に移しました。秋には、PTAや同窓会、地域の相撲関係者からなる実行委員会を立ち上げ、子どもたちが自信をもって大会に参加できるよう相撲教室を実施し、土俵上での心構えやすり足などの基本動作を教えてくださいました。

大会当日、校庭に描かれた6つの土俵で各学年の予選が行われ、決勝戦は移設した本物の土俵で行われました。実行委員の方々には行司として、白熱する取組を支えていただきました。勝っても負けても、子どもたちの一生懸命な姿に、相撲大

会を復活できた大きな喜びを感じました。

今後も、持続可能な教育活動を推進するため、「地域とともに、はっけよい!」を合い言葉に、開かれた学校づくりを進めていきます。



横綱（優勝）決定戦!

熱塩加納型学校給食を柱とした食育の推進

喜多方市立熱塩加納小学校

本校では、教育目標に「夢いっぱい友だちいっぱい熱塩加納小学校」を掲げています。めざす児童像の一つ「たくましい子」の重点事項として、「望ましい生活習慣の定着と食育の充実」をあげ、熱塩加納型学校給食を通じた食育の推進に力を入れています。具体的には、「食べる力」を育む実践として、「栄養技師による食育授業」「養護教諭による食に関する指導や情報発信」「肥満傾向改善のための個別支援」「自分手帳の活用」等を実施しています。また、「感謝の心」を育む実践として、「保健給食委員会による発表」「まごころ野菜生産者招待給食の実施」「給食試食会の実施」等を実施しました。さらに、「郷土愛」を育む食育の実践として、「米作りプロジェクト」「大すき!喜多方の日献立への応募」「給食連絡帳の活用」「児童が育てた野菜を使った今日の給食」等を実施しています。

熱塩加納町には、まごころ野菜の会や地域の食材を使った

学校給食等、食育に生かすことができる魅力ある資源がたくさん存在しています。地域の特色を生かし、学校・家庭が一体となって食育

の推進に取り組むことで、児童は、食と地域のつながりを実感し、食に関わる人への感謝と郷土愛を深めながら望ましい食習慣を身に付け、心も体も大きく成長しています。



日本一の熱塩加納の給食

文化祭で響き合う伝統と交流のハート

昭和村立昭和中学校

本校は、地域とともに歩む特色ある教育を推進しています。特に小中連携に力を入れており、4年前より小・中学校合同の文化祭を実施しています。



昭和中太鼓

昭和中学校の文化祭に向けた取組には、地域に根ざした伝統と、広がりゆく交流の息づかいが感じられます。平成17年度から受け継がれてきた「昭和中太鼓」は、その象徴です。演奏は昭和村の四季を題材としており、厳しい冬の静けさ、春の暖かい息吹、そして短い夏に盛り上がる祭りの活気を、力強いリズムで表現します。生徒の人数こそ多くはありませんが、一打一打に心を込めた見事な演奏は、観客の胸に深く響きます。

一方、昨年度から始まった近隣の金山中学校との「合同合唱」は、新たな文化祭の魅力として定着しつつあります。夏休み前からそれぞれの学校で練習を重ね、さらに夏休みには合同練習を行いました。その成果は地区コンクールでの優秀賞という形で花開き、県コンクールへの出場にもつながりました。コンクール後も、互いの文化祭に友情出演する形で交流を深め、文化祭当日も息の合った素晴らしい歌声がホールいっぱいに響き渡り、聴く人々を魅了しました。

地域の伝統と学校同士の絆——昭和村の文化祭は、その両方が調和する温かい舞台となっています。



金山中との合同合唱